別紙様式２

県立並木中等教育学校自己評価表

目指す学校像	１　「つくば」とともに，「つくば」が持つ使命を共有した，次代の日本・世界の発展を担う「人間力」を備えた人材を育成する学校 ２　生徒一人ひとりを大切にするとともに，地域から信頼され，生徒に力（「社会力」「学力」「体力」）と夢を提供する学校

昨年度の成果と課題	重　点　項　目	重　点　目　標	達成状況
高校入試のないゆとりある時間を活用した体験学習の充実により本校の特色である科学教育や国際教育を中心に，意欲ある学校風土が醸成されつつある。特に３年次生においては平和学習や国内の伝統芸能について学び，また４年次生においては５年次での卒業研究発表に向けた中間発表会を開くなど，充実した教育活動ができた。 今年は，５年次生による卒業研究の発表の年である。今後，より一層の教育活動の充実を図るために，右の重点項目のさらなる具現化を図っていく。	１　意欲ある学校風土の醸成	①　健やかな心と体の育成と人間力を培う教育の実践 ②　生徒の可能性を大きく引き出す授業の構築とシラバスを使った効果的な学習 ③　職員の情報の交換・共有化	B
	２　志高く，進路実現に取り組む生徒の育成	①　個人面談の重視と進学ガイダンスの充実 ②　生徒の可能性に挑戦する進学指導の実践	A
	３　スーパーサイエンスハイスクール事業の円滑な推進	①　校内体制つくり ②　研究開発内容の確立	A
	４　完成年度に向けた校内体制の充実	①　教育活動の重点化に向けた全職員の共通理解 ②　６年間の教育活動の体系化	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
１ 教務部	「つくば」がもつ使命（ミッション）を全職員が共有し，さらなる生徒の学力向上をめざす。	生徒にわかりやすい（徹底しやすい）シラバスを作り，シラバスを参考にした学習計画の立案を促すことで，生徒の自主的な学習態度を育成する。	A	A	・中等教育学校の完成年度として本年度実施状況を吟味し，６年間を見通した体系的なシラバスの作成及びシラバスを利用した学習システムを構築する。 ・校内公開授業による授業力の向上を図る。 ・学校評価システムを効果的に利用した運営 ・高校，中等教育学校どうしの連携を図る。
		５０分授業の展開を再構築し，多様化した生徒に対応した授業（分かる授業・参加する授業・楽しい授業・実力がつく授業）の工夫改善を図る。	A		
		公開授業の奨励，積極的な職員研修（先進校視察等），情報の交換・共有化を促す。	A		
	授業時間の確保と教務情報の提供に努める。	各教科間や，学年内の連携を強化し，授業交換を徹底させ，補填授業を充実させる。	A	B	
		チャイムからチャイムまでの授業の徹底を図る。	B		
		インターラクティブボード（情報表示装置）を有効に利用し教務情報を提供する。	B		
	中等教育学校完成への移行期間５年目（完成前年度）という事実を踏まえて校内体制の見直しを図る。	生徒や学校評議員からの学校評価システムを生かし，校内体制の見直しを図る。	B	A	
		各部・各教科・各学年の連携強化に努める。	A		
		並木高校との連携を強化し，移行がスムーズに推進するように校内体制の見直しを図る。	A		

評価基準　達成状況　Ａ：十分達成できている　Ｂ：達成できている　Ｃ：概ね達成できている　Ｄ：不十分である　Ｅ：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
2 企画部	中等教育学校へのスムーズな移行と，より良い中等教育学校を目指した企画の集約とその実践・運営のとりまとめを行う。	本校の将来構想の研究（中等教育学校としてのビジョンの具体化と共有）	B	B	・広報活動の充実 ・SSHのカリキュラム開発研究の充実 ・SSHの評価 ・一研の体系化
		残り１年間の並木高校の教育の充実させる取り組み	B		
		科学教育の充実 （SSH事業の企画と運営のとりまとめ，その他））	A		
		国際理解教育の充実（講演会，国際交流イベント，その他）	A		
		「並木メソッド」の充実 （一研ゼミ，校内発表会，校外発表会の企画・運営等）	B		
		「東京大学高校生のための金曜特別講座」等の自発的学習の企画と実施	B		
3 生徒指導部	基本的生活習慣を育成し，他人との協調性を養い，自己実現を目指す。	全職員の共通指導	B	B	・中等教育学校における校則及び内規を継続して検討していく。 ・交通安全指導を継続的に実施する。交通事故未然防止の方策を学校全体で検討していく。 ・マナーアップ運動を年２回盛大に実施する。 ・朝の「あいさつ運動」を継続して実施していく。
		自主的に，挨拶をする・服装を正す・時間を守る，が出来るようにする。	B		
		マナーアップ活動を通して，校則を遵守する態度の育成	A		
	保護者・関係諸機関との連携を密にし，問題行動の未然防止を目指す。	保護者との連携・協力	A	A	
		中学校・警察等の関係諸機関との連携・協力	A		
		生徒事故の未然防止	B		
	安全教育の推進を図り，自己防衛意識・自己管理の育成を目指す。	登下校時の立哨指導・巡回指導の実施	A	B	
		交通安全教育の徹底	B		
		自転車点検の実施	A		
	中等教育学校としての校則の見直しを図る。	中等教育学校における前期課程，後期課程に見合った生徒指導の内規を検討する。	B		
	心の問題を抱えている生徒の早期発見と早期対応	欠席調べをして休みがちな生徒を把握する。	B		
		週に１度の部会を持ち，情報交換を密にし，チーム支援の充実を図る。	B		
		校内研修会を実施し，不登校マニュアルや相談室便りを発行する。	B		
	学年・保護者との連携強化	教育相談係の中に学年担当を決め，学年会の生徒動向の情報を共有する。	B		
		生徒へのアプローチについて教育相談的視点からのアドバイスをする。	A		
		保護者との連携を密にする。また場合によっては医療機関等の紹介をする。	A		
	スクールカウンセラー（ＳＣ）の活用	カウンセリングを受ける生徒に対して学校生活の中で支援する。	A		
		カウンセリングにおいて，ＳＣと担任等の間の連絡調整を支援する。	A		

評価基準　達成状況　Ａ：十分達成できている　Ｂ：達成できている　Ｃ：概ね達成できている　Ｄ：不十分である　Ｅ：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
4 特別活動部	部活動の活発化	中等教育学校の生徒も含めた部活動の活動方法を，前年度に引き続き模索する。	A	B	・中等教育学校としての部活動の在り方活動方法の検討を精選を含め取り組んでいく。 ・より生徒主体の生徒会活動の推進
		部活動における効率的な活動を推進し，個の育成と集団のレベルアップを図る。	B		
		部顧問の適切な配置を考え，学校全体としての指導体制をより充実させる。	B		
	主体性のある生徒会活動の推進	生徒会役員が，主体性を持って生徒会活動を進められるようにする。	B	B	
		中等教育学校の生徒も含めた生徒会活動のあり方を，前年度に引き続き模索する。	A		
		生徒会役員選挙に多くの候補者が立候補するよう，生徒の意識を高揚させる。	B		
	学校行事の活性化	かえで祭の実行委員を増やし，生徒による企画・運営力の向上をめざす。	A	A	
		中等教育学校と高等学校が一体化したかえで祭を作り出す。	A		
		中等教育学校と高等学校の同日開催となるスポーツデイを成功に導く。	A		
5 進路指導部	適切な進路情報を提供し進路意識の高揚を図る。	進路室の整備と利用促進（後期課程生）	C	B	・中等前期課程においては英数国の基幹教科を中心に成績下位層の生徒を作らない学習指導を推進 ・後期課程では初の卒業年次が結果を出せるようにより一層の協力体制を確立する。
		進学要覧＜合格体験記＞のＨＲ等での活用（３～６年）	B		
		進路だより・保護者面談資料等を利用し，定期的な進路情報の提供	A		
	進路計画の作成	ＬＨＲ等を活用した進路指導（各学年での到達目標を設定する。）	B	A	
		進路・生活実態調査を定期的に行い，生徒のその時点での状況を提供する。	A		
		進路希望状況を適宜把握（後期課程）し，円滑に学年指導が進むよう情報を提供する。	A		
	自己実現のための支援	早期に目標を見つけることが出来るように，進路ガイダンス等の充実を図る。	A	A	
		模試の情報収集（職員会議で報告）と結果の活用（各学年）・進路研修会の実施（前期課程）	A		
		学年との協力体制の確立	A		
6 保健部	生徒の健康・安全・健康教育の推進に努める。	健康診断は校医と相談し，合理的且つ円滑に行う。	B	B	・健康診断，身体測定のより合理的な実施を行う。 ・避難訓練を含めた災害時等の職員の対応の周知徹底をはかる。 ・引き渡しカードの作成を行う。
		健康診断の結果，要治療者については早期治療を徹底する。	B		
		日常的な保健室利用生徒について，担任・保護者との緊密な連携をはかる。	A		
		校内の各組織と相談･連携し，性･薬物等の講話を年１回は実施する。	B		
		担任･教育相談係と連携を深め，心のケアを重視する。	A		
		委員会活動の活性化を図る。	B		
	校舎内の美化と安全に努める。	清掃時間には可能な限り先生方に監督についてもらう。	B	B	
		ワックスがけを年２回実施する。	B		
		危険箇所の点検を行ない，改善に努力する。	B		
		災害時等の対応マニュアルの見直しを行い，全職員に周知徹底する。	B		
		避難訓練を実施する。	B		

評価基準　達成状況　Ａ：十分達成できている　Ｂ：達成できている　Ｃ：概ね達成できている　Ｄ：不十分である　Ｅ：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
7 給食部	正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身につけ，楽しく食事ができるようにする。	全職員の共通理解のもと，安全と食育指導上，適切な指示をしながら給食指導を行う。	B	B	・前期課程職員の共通理解の徹底 ・昼食を栄養補給の場とだけ捉えるのではなく，コミュニケーション育成の場とするための方策
		給食係や給食委員会による常時活動の活性化を図り，給食の円滑な配膳や片付けを行えるようにする。	A		
		職員も一緒に給食を食べながら，適宜，食事のマナーの指導や望ましい人間関係の育成を図る。	B		
8 図書部	図書委員会の活発化	バーコードによる貸出・返却のスムーズな運営	A	B	・蔵書と設備の充実 ・学校図書館活用教育の推進
		広報内容（「図書館報」等）の充実	A		
		定例役員会の開催（活動方針の検討）	B		
	図書館運営と図書の管理	選書作業の組織化と登録・配架作業の円滑化	B	B	
		定期的な蔵書点検と除籍作業の推進	A		
		学校図書館活用教育の推進と図書館の環境整備	B		
9 渉外部	ＰＴＡ活動の共通理解と会員同士の親睦	ＰＴＡ本部役員会の開催	A	A	・本部役員会の回数を少し減らす。 ・生徒指導委員会を活性化する。
		学年委員会・広報委員会・研修委員会・生徒指導委員会の開催	A		
		かえで祭・ＷＲへの参加協力の呼びかけ	A		
		広報誌の発行	A		
		支部会の開催	A		
		ＰＴＡ連合会などへの参加	A		
１０ 教育情報部	授業におけるIT活用	定期的な校内研修会の実施	C	B	・メールマガジンの活用の学年間の統一（県のシステムの運用開始） ・校内研修会の実施（教育の情報化） ・成績管理システムの安定した運用 ・古いＯＳ及びソフトの更新 ・視聴覚室の整備 ・技術・家庭科，情報科と連携した教育の情報化の推進 ・情報セキュリティの向上
		環境の整備（普通教室，特別教室）	B		
		教科「情報」と他教科の連携	B		
	IT環境を活用した校務の効率化	IT活用のための機器の導入と利用普及	B	B	
		校内サーバーの活用およびデータの共有	B		
		教育情報ネットワークの活用促進	B		
		成績管理システムの導入および周知	B		
	IT及び視聴覚環境の整備	ハードウェアの整備	A	C	
		校内ネットワーク（LAN）の整備	B		
		ソフトウェアの整備	D		
		PC室ならびに視聴覚室の整備（視聴覚機器など）	C		
	IT環境の安全な運用	ネットワークの安定的な運用	B	A	
		セキュリティの向上と迅速な対応	A		
		個人情報保護	B		
		情報倫理の確立	B		
	ITを活用した地域や保護者への広報活動の充実	インターネット・ブログでの学校紹介の充実	C	C	
		メールマガジンを活用した保護者への広報活動	C		

評価基準　達成状況　Ａ：十分達成できている　Ｂ：達成できている　Ｃ：概ね達成できている　Ｄ：不十分である　Ｅ：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
１１ 数理 強化部	数学科・理科と協力しながら，より効果的な学力強化策の組織化を図る。	教科内で，各学年で教科担当者が行っている数学・理科の学力強化策の共通理解を図り，より効果的なものに改善していく。	B	B	・数学科・理科および学習指導部(学力向上担当)などが，数理の学力強化を担当する。
		意欲を喚起するために実施している数学や理科の企画への積極的な参加を促すようＰＲに努める。	B		
１２ 事務部	適正な予算の執行に努める。	将来を見通した教育環境の整備充実に努める。	A	A	・学校徴収金の適切な執行を心がけるよう努める。 ・日ごろの安全点検に努め，小さな破損等に対し早急に対応することで，施設の管理保全を行う。
		安全性を考慮した校舎内外の整備に努める。	A		
		最小費用で最大の効果を目指した予算執行に努める。	A		
		団体費については，目的にあった予算執行に心がける。	C		
	施設設備の管理保全に努める。	生徒が安全に教育を受けられるよう，日常の点検を怠らない。	B	A	
		施設設備の破損や危険箇所が発見された場合は，早急に対処する。	A		
	窓口や電話の迅速な対応に努める。	窓口業務については，親切丁寧な対応に心がける。	A	A	
		電話の取り次ぎは，迅速に行う。	A		

評価基準　達成状況　Ａ：十分達成できている　Ｂ：達成できている　Ｃ：概ね達成できている　Ｄ：不十分である　Ｅ：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
１３ 中等 第１学年	**中等生としての規律ある基本的生活習慣の育成(生活指導)** ⇒　総合的に成熟した人格者の育成を目指し，ルールを遵守し自制・自律のできる生徒を育てる。	校内や登下校時において，学年職員全員による挨拶指導の徹底とよりよい人間関係づくりに努める。	A	B	・生徒がお互いの個性を理解し，男女分け隔て無く仲良く生活できている生徒が多いが，反面精神的な幼さを生活全般で感じる場面が多い。特に公共のマナー，ルールを守るという点では課題が残った。「並木中等生としての自覚と誇り」という点については来年度も意識づけを図っていきたい。 ・上位層と下位層の学力差が顕著である。下位層への支援はもちろんのこと，上位層のさらなるレベルアップを目指した支援を行って行きたい。
		生徒個人，生徒相互による規範意識とモラルの高揚を図る。	B		
		ルールを守った学校生活の意義を理解させ，服装指導による中等生の誇りを自覚させる。	B		
		遅刻カードの導入と家庭との連携を図った事後指導の徹底を図る。	B		
		５分前行動を奨励しチャイム前授業準備の徹底を図る。	B		
	学習の習慣化と基礎学力の育成（学習指導） ⇒　日々の授業で学んだことを基盤として，さらなる向上を目指した発展学習に積極的に励み，豊かな知識と確かな学力を身につけさせる。	基礎基本の習得とともに，基本的な学習習慣（基本的な躾け）を身につけさせ，自ら学ぼうとする態度を育てる。	A	B	
		毎日の学習記録表による家庭学習の習慣化を図る。	B		
		単元末テスト・定期テスト・課外（補習）等の実施による学力の向上とボトムアップを目指す。	B		
		総合的な学習における，知識の活用能力の育成を目指し，課題解決能力を高める。	B		
		単元全体を通して，基礎から発展へと広がりのある授業を展開する。	A		
	自己理解と進路意識の高揚（進路指導） ⇒　自分自身を客観的に見つめ，自己の適性を見極めるとともに，将来の職業に対する興味・関心を持たせる。	校外学習・進路講演会等による進路意識の覚醒と高揚を図る。	B	B	
		適性検査等の実施による自己理解の促進を図る。	B		
		総合的な学習の時間を中心に新聞記事を活用したり，追究活動を行ったりすることを通して社会観・職業観の育成を図る。	B		
		面談等を活用して，将来について生徒に慎重に考えさせる。	B		
	（その他） 充実した中等教育学校生活を送らせる。	部活動への参加の推進	A	A	
		生徒会活動への参加の推進	B		
		学校行事への積極的参加を促進	A		

評価基準　達成状況　Ａ：十分達成できている　Ｂ：達成できている　Ｃ：概ね達成できている　Ｄ：不十分である　Ｅ：できていない

１４ 中等 第２学年	**中等生としての規律ある基本的生活習慣の育成(生活指導)** ⇒　総合的に成熟した人格者の育成を目指し，ルールを遵守し自制・自律のできる生徒を育てる。	校内や登下校時における学年職員全員による挨拶指導の徹底及びよりよい人間関係づくりに努める。	B	A	・全体として基本的生活習慣は概ね身についているが，挨拶の徹底という点では，やや課題がある。校内では，生徒が知っている教員だけでなく，知らない人（教員）に対してもＴＰＯに応じてできるように指導したい。 ・全体として比較的高い学力を維持しており，家庭学習の習慣化もほぼ全員で達成されている。しかし，課題の提出が滞る生徒も若干おり，今後も継続的に指導していく必要がある。 ・並木メソッドでのキャリア学習は，今後も進路意識の高揚を図るため，次年度からもスパイラルに指導していくことが必要である。
		生徒個人，生徒相互による規範意識とモラルの高揚を図る。	B		
		学年・学級によるルールを守った学校生活の意義の理解と服装指導による中等生の誇りを自覚させる。	A		
		遅刻カードの導入と家庭との連携を図った事後指導の徹底を図る。	A		
		５分前行動を奨励しチャイム前授業準備の徹底を図る。	A		
	学習の習慣化と基礎学力の育成（学習指導） ⇒　日々の授業で学んだことを基盤として，さらなる向上を目指した発展学習に積極的に励み，豊かな知識と確かな学力を身につけさせる。	基礎・基本の習得とともに，家庭での学習習慣を徹底させる。	B	A	
		毎日の家庭学習の習慣化を意識づけを継続する。	A		
		教科指導により，自主学習帳等の提出による予習・復習の習慣化を図る。	A		
		単元末テスト・定期テスト・課外（補習）等の実施による学力の向上とボトムアップを目指す。	A		
		総合的な学習の時間（並木メソッド）における，キャリア学習・探究活動の深化を目指す。	B		
		単元全体を通して，基礎から発展へと広がりのある授業を展開する。 例）教科の発展としての関連施設の見学など	A		
	自己理解と進路意識の高揚（進路指導） ⇒　自分自身を客観的に見つめ，自己の適性を見極めるとともに，将来の職業に対する興味・関心を持たせる。	校外学習・講演会等による進路意識の高揚を図る。	B	B	
		職業に関する学習（職業の多様性の理解・職業観の育成・自己理解の促進），職場見学，校外学習等による進路意識の高揚を図る。	B		
		学活，総合的な学習の時間を利用した社会観・職業観・人生観の育成を目指す。	B		
		面談等を活用して，将来について生徒に慎重に考えさせる。	B		
	（その他） 充実した中等教育学校生活を送らせる。	部活動への参加の推進	B	B	
		生徒会活動への参加の推進	B		
		学校行事への積極的参加を促進	B		

評価基準　達成状況　Ａ：十分達成できている　Ｂ：達成できている　Ｃ：概ね達成できている　Ｄ：不十分である　Ｅ：できていない

１５ 中等 第３学年	**中等生としての規律ある基本的生活習慣の育成(生活指導)** ⇒　総合的に成熟した人格者の育成を目指し，ルールを遵守し自制・自律のできる生徒を育てる。	校内や登下校時における挨拶指導の徹底とよりよい人間関係づくりを行う。	A	B	・基本的な生活習慣の確立については，今後さらなる改善が必要である。挨拶の徹底や登下校の交通マナー，生活習慣の確立による学習時間と睡眠時間の確保などがあげられる。 ・学力向上については，成績下位層の生徒への補習継続，上位層への指導強化を図りたい。 ・進路指導については，早期の目標設定をさせるべく，進路指導関連の行事を見直し，キャリア教育と絡めて計画を策定し，推進していきたい。
		ルールを守った学校生活の意義の理解と服装指導による中等生の誇りを自覚させる。	A		
		遅刻カードの活用と家庭との連携を図った事後指導・生活指導の徹底を図る。	B		
		５分前行動を奨励しチャイム前授業準備の徹底を図る。	B		
		生徒一人一人の自制・自律の精神と愛校心を育てるために，学年生徒会を組織して，生徒の自治的活動を支援する。	B		
	学習の習慣化と基礎学力の育成（学習指導） ⇒　日々の授業で学んだことを基盤として，さらなる向上を目指した発展学習に積極的に励み，豊かな知識と確かな学力を身につけさせる。	授業での学習の仕方を理解させ，自ら進んで学ぼうとする態度を育てる。	A	A	
		基礎基本の確実な習得とともに,応用・発展，深化へと広がりのある授業を展開する。	A		
		家庭学習の習慣化を図るたの指導の工夫をする。	A		
		単元末テスト・定期テスト・課外（補習）等の実施による学力の向上を目指す。	B		
		単元全体を通して，基礎から発展へと広がりのある授業を展開する。	B		
		各種講演会や模試の実施・一人一研究により，自己表現力や記述力の向上を図る。	A		
		定期テスト・実力テスト等の実施による学力の向上を目指す。	A		
		総合的な学習における，知識の活用能力の育成を目指し，課題解決能力を高める。	B		
	自己理解と進路意識の高揚（進路指導） ⇒　自分自身を客観的に見つめ，自己の適性を見極めるとともに，将来の職業に対する興味・関心を持たせる。	大学・学部学科調べやマイフューチャーセミナーによる進路意識の覚醒	B	B	
		大学見学・校外学習等による進路意識の高揚	A		
		学活，総合的な学習の時間を利用した社会観・職業観の育成	B		
		面談等を活用して，将来について生徒に慎重に考えさせる。	B		
		国内修学旅行を通して日本の文化伝統への理解を深め，さらに国際社会での情報発信能力の育成を図る。	A		
	（その他） 充実した中等教育学校生活を送らせる。	部活動への参加の推進	B	B	
		生徒会活動への参加の推進	B		
		学校行事への積極的参加を促進	A		

評価基準　達成状況　Ａ：十分達成できている　Ｂ：達成できている　Ｃ：概ね達成できている　Ｄ：不十分である　Ｅ：できていない

１６ 中等 第４学年	**中等生としての規律ある基本的生活習慣の育成(生活指導)** ⇒　総合的に成熟した人格者の育成を目指し，ルールを遵守し自制・自律のできる生徒を育てる。	校内や登下校時における挨拶指導の徹底とよりよい人間関係づくりを行う。	B	A	・挨拶，言葉使い，服装頭髪については良好な状況である。 ・全体的に欠席，遅刻，早退が少なく，規律ある学校生活が送れた。 ・規範意識も高く自ら考え判断する力が養われた生徒も多くみられる。さらなる，向上が見られるように継続して指導していく。 ・学習指導においてはおおむね各教科のきめ細かい指導(補習等)により達成できていると思われる。 ・進路指導においては進路行事を充実させ進路意識の高揚がはかれた。面談等も実施し生徒理解につとめていきたい。
		ルールを守った学校生活の意義の理解と服装指導による中等生の誇りを自覚させる。	B		
		遅刻カードの導入と家庭との連携を図った事後指導の徹底を図る。	A		
		家庭との連携を図った生活指導を徹底する。	A		
		５分前行動を奨励しチャイム前授業準備の徹底を図る。	A		
		生徒一人一人の自制・自律の精神と愛校心を育てるために，生徒の自治的活動を支援する。	B		
	学習の習慣化と基礎学力の育成（学習指導） ⇒　日々の授業で学んだことを基盤として，さらなる向上を目指した発展学習に積極的に励み，豊かな知識と確かな学力を身につけさせる。	授業での学習の仕方を理解させ，自ら進んで学ぼうとする態度を育てる。	B	B	
		基礎基本の確実な習得とともに,応用・発展，深化へと広がりのある授業を展開する。	B		
		ウィークリースタディーレコードの提出による家庭学習の習慣化	B		
		週末課題による家庭学習の習慣化	B		
		到達度テストや課外授業による学力の向上	B		
		小論文講演会や模試の実施・ひとり一研により自己表現力や小論文等の記述力の向上	B		
		定期テスト・実力テスト等の実施による学力の向上を目指す。	B		
		総合的な学習における，知識の活用能力の育成を目指し，課題解決能力を高める。	B		
	自己理解と進路意識の高揚（進路指導） ⇒　自分自身を客観的に見つめ，自己の適性を見極めるとともに，将来の職業に対する興味・関心を持たせる。	適性検査等の実施による自己理解の促進	B	B	
		大学・学部学科調べやマイフューチャーセミナーによる進路意識の育成	A		
		ひとり一研・大学出前授業・校外学習等による進路意識の高揚	B		
		学活，総合的な学習の時間を利用した社会観・職業観の育成	B		
		面談等を活用して，将来について生徒に慎重に考えさせる。	A		
	（その他） 充実した中等教育学校生活を送らせる。	部活動への参加の推進	B	B	
		生徒会活動への参加の推進	B		
		学校行事への積極的参加を促進	B		

評価基準　達成状況　Ａ：十分達成できている　Ｂ：達成できている　Ｃ：概ね達成できている　Ｄ：不十分である　Ｅ：できていない

１７ 中等 第５学年	**中等生としての規律ある基本的生活習慣の育成(生活指導)** ⇒　総合的に成熟した人格者の育成を目指し，ルールを遵守し自制・自律のできる生徒を育てる。	校内や登下校時における挨拶指導の徹底とよりよい人間関係づくりを行う。	B	B	・挨拶，言葉使い，服装頭髪については良好な状況である。 ・一部欠席，遅刻，早退が多い生徒がみられた。 ・学習指導においては平常課外や週末課題・到達度テストなど各教科の指導によりおおむね達成できている。 ・進路指導においては進路行事を充実させ進路意識の高揚がはかれた。面談等も実施し生徒理解につとめていきたい。 ・ＨＲや集会,学校行事において,本校１回生の自覚を促す指導を行った。
		ルールを守った学校生活の意義の理解と服装指導による中等生の誇りを自覚させる。	A		
		遅刻カードの導入と家庭との連携を図った事後指導の徹底を図る。	B		
		家庭との連携を図った生活指導を徹底する。	A		
		５分前行動を奨励しチャイム前授業準備の徹底を図る。	B		
		生徒一人一人の自制・自律の精神と愛校心を育てるために，生徒の自治的活動を支援する。	A		
	学習の習慣化と基礎学力の育成（学習指導） ⇒　日々の授業で学んだことを基盤として，さらなる向上を目指した発展学習に積極的に励み，豊かな知識と確かな学力を身につけさせる。	授業での学習の仕方を理解させ，自ら進んで学ぼうとする態度を育てる。	A	A	
		基礎基本の確実な習得とともに,応用・発展，深化へと広がりのある授業を展開する。	A		
		ウィークリースタディーレコードの提出による家庭学習の習慣化	A		
		週末課題による家庭学習の習慣化	B		
		到達度テストや土曜学習会，課外授業による学力の向上	A		
		小論文講演会や模試の実施・ひとり一研により自己表現力や小論文等の記述力の向上	A		
		定期テスト・実力テスト等の実施による学力の向上を目指す。	A		
		総合的な学習における，知識の活用能力の育成を目指し，課題解決能力を高める。	A		
	自己理解と進路意識の高揚（進路指導） ⇒　自分自身を客観的に見つめ，自己の適性を見極めるとともに，将来の職業に対する興味・関心を持たせる。	適性検査等の実施による自己理解の促進	B	A	
		大学・学部学科調べやマイフューチャーセミナーによる進路意識の育成	A		
		ひとり一研・大学出前授業・校外学習等による進路意識の高揚	A		
		学活，総合的な学習の時間を利用した社会観・職業観の育成	A		
		面談等を活用して，将来について生徒に慎重に考えさせる。	A		
	（その他） 充実した中等教育学校生活を送らせる。	部活動への参加の推進	B	A	
		生徒会活動への参加の推進	A		
		学校行事への積極的参加を促進	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
１８	基本的な学習習慣の定着	学習ガイダンスを重視し，学習の見通しをもたせ，計画的に学習しようとする態度を育てるとともに，予習・復習の学習習慣を身に付けさせる。	B	B	・思考力や記述力の強化・育成を，低学年から段階的に展開できるよう，更に指導の体系化を図る。特に論理的思考力の育成については，他校の事例研究等も進め他教科と協力しながら確立を目指す。古典学習については，３・４年の充実期における指導法の完成を図る。
		単元ごとに明確な到達目標を提示し，段階をおった授業計画と評価計画を提示する。	B		
	読解指導の深化	説明的文章・文学的文章の読解法について解説し，いろいろな文章についても読解できるようにする（「客観読み」の理解を図る。）。	A	A	
		生徒自らが，主体的に文章と対峙するような視点をもつ読解指導を展開する。	A		
国語科	「書くこと」の指導の徹底	「読むこと」や「聞くこと」と関連させながら，ノート指導を基本とし，書くことを通して思考をまとめる方法を学ばせるようにする。	A	A	
		各年次に合わせた作文や小論文の指導を行い，自分の考えを十分に表現できるように添削指導を行う。	B		
	「聞く」態度の育成と，適切な話し方の指導	正しく内容を理解するために，状況に応じて「聞く」，「聴く」，「訊く」の３種類の「きく」を使い分けられる生徒を育てる。	B	B	
		場と内容に応じ，聞き手を意識した「話し方」を工夫しようとする態度を育てる。	B		
	研修会等を利用して，研鑽に励み，授業作りや指導法の向上を図る。	研修会等に積極的に参加して，授業作りの参考になる情報を得る。	A	B	
		年次進行に合わせた授業法の研究を行い，新たな指導法の構築を図る。	B		
		他の中等教育学校の授業を積極的に参観し，指導法の参考とする。	B		
１９	年間指導計画の作成	シラバスの作成と活用	B	B	・前期課程においては知識理解に重点を置き基礎基本の確実な習得を図る。後期課程においては，科目ごとの目標を設定し，定期テストや模擬試験により，習得した知識の活用力の向上を図る。
		単元目標の提示と達成	B		
	生徒の学習意欲を喚起する学習指導	ＩＴを活用した授業の実践	A	A	
社会科		学習方法・学習形態の工夫と改善	A		
		学習指導及び方法の工夫	B		
		科目の特性に応じた課題の工夫	B		
	学力向上と定着のための指導	小テストの実施とプリントの活用	B	B	
		家庭学習の充実	B		
		観点別評価の工夫	A		

評価基準　達成状況　Ａ：十分達成できている　Ｂ：達成できている　Ｃ：概ね達成できている　Ｄ：不十分である　Ｅ：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
２０ 数学科	基礎・基本の定着とともに応用力の養成を図る指導	生徒が考えればわかる，やれば解けると思えるように，授業展開や説明方法を工夫する。	A	A	・生徒の学力向上のために，体制を整える。（授業時数の確保，下位層への補習の実施，中間層への意識・学習意欲向上のためのアプローチ，上位層の更なるステップアップ）
		定期的に課題を与え，家庭学習を充実させることで，基礎・基本の定着を図る。	A		
		生徒の学力に応じて学習内容を精選し，深化的・発展的な内容の学習も行う。	A		
	学習意欲を喚起する指導	課題や課題提示の工夫する。	A	A	
		数学的活動の充実を図る。	A		
		数学的コミュニケーションの充実を図る。	B		
	個に応じた指導	きめ細かな指導をするため，TT指導・習熟度別学習を工夫改善する。	A	A	
		生徒の実態を把握し，個に応じた助言・指導が行えるようにする。	A		
		質問を受け入れる体制作り（放課後・休み時間の活用）をする。	A		
２１ 理科	年間指導計画の改善	地域素材や研究施設の活用を図り，観察・実験など直接体験を重視する。	A	A	・後期課程の内容を各単元で発展的な内容として導入し，興味・関心を高めたり，より深い理解を促したりしてきた。今後は，それらの詳細な内容を教員・生徒が利用できる，独自の資料冊子を編集していく。
		後期課程の学習内容を導入するにあたり，系統的に学習内容を検討し，実施する。	A		
		上記目標のため，シラバスの改善を行う。	B		
	学力の向上	科学に対する興味・関心を高める導入やＩＣＴの積極的活用，教材の工夫を行う。	A	A	
		分かる授業の工夫と展開を研究する。	A		
		ワークや到達度シートを活用し，基礎の徹底を図る。	B		
	科学的な見方や考え方を育成する指導の工夫改善	仮説を立てて観察・実験を行い，結果を分析したり，解釈したりする活動を行う。	B	B	
		実感を伴った理解を図るために，実社会や実生活との関連を重視し，学んだことを生かす態度を態度を育てる。	B		
		科学的な用語を使って，説明したり，記述したりする活動を取り入れる。	B		
２２ 英語科	総合的なコミュニケーション能力の育成	言語の使用場面を考え，４技能のバランスのとれた言語活動を実施する。	A	A	・ディベートチャレンジ校として最終年度に入るため，総合的な英語力を，コミュニカティブに身につけさせるための方法をさらに模索・確立していく。
		オーセンティックな物や視聴覚教材を取り入れた授業を展開する。	A		
		授業導入時や展開時における日常会話や音声表現活動（自己表現活動）を実施する。	A		
	ワークシート等の工夫を通した言語学習における基礎基本の定着	ワークシート類の定期的な提出や評価と共に，効果的に生徒へフィードバックする。	A	B	
		辞書の活用を奨励し，語彙を増やすことを目的とした諸活動を実施する。	B		
		自己の学習状況を振り返り，積極的に授業に参加する態度を養う。	B		
	言語学習を通して異文化交流，異文化理解をしていく態度を育てる。	教科書だけでなく様々な補助資料を用いて異文化理解を進める。	A	A	
		ALTとのコミュニケーション活動を通して，様々な考えに触れる機会を設ける。	A		
		ゲストティーチャーの活用や総合的な学習と連携した活動を実施する。	B		

評価基準　達成状況　Ａ：十分達成できている　Ｂ：達成できている　Ｃ：概ね達成できている　Ｄ：不十分である　Ｅ：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
２３ 芸術科 (音楽)	音楽活動の基礎的な能力を伸ばす。	基礎的技能を身につけ，創造的に表現する能力を高める。	B	B	・興味関心を持たせることにも意識しながら音楽の基礎的なことについても理解を深められるようにしたい。
		様々な表現手段を提示し，各自の表現に合った技術を習得できるようにする。。	B		
	鑑賞教育の充実を図る。	音楽の諸要素による変化や多様な表現に関心を持ちイメージできるようにする。	A	A	
	感性を豊かにし，音楽を愛好する心情を育てる。	幅広く音楽文化の表現を理解し尊重する心情を育てる。	A	B	
		美しいものへの感動を通して自己を高める。	B		
２４ 芸術科 (美術)	興味関心を持たせる指導	分かりやすい授業の展開と工夫	A	A	・幅の広い美術体験をもっと充実させ，柔軟な発想を持たせたい。 ・段階を追って知識や技能を高めるように工夫したい。
		年齢に合わせた指導内容と指導方法を工夫する。	A		
		実生活に即した単元課題の設定	B		
	個性を大切にした教科指導	一人ひとりとの対話を通して生徒の理解に努める。	B	B	
		単元課題を精選し，作品作りの時間を配分することで完成度を高める。	B		
		鑑賞体験を増やし，他者の考えや心情を理解する。	B		
	基礎基本を大切にした教科指導	様々な分野の表現を知り，多くの体験を積むことで，基礎的な知識を学ぶ。	A	A	
		基本的な用具の使い方や技術を身につける。	A		
		粘り強く最後まで取り組む姿勢を育む。	B		
２５ 保健体育科	体力を高め，心身の調和的発達を図る。	授業及び体力テスト等への積極的参加姿勢の育成	A	B	・体育では，前期課程でしっかりと基礎運動技能を習得し，後期課程の選択授業につなげていく。 ・保健では，前期課程と後期課程で重なっている部分があるので，つながりを考えて指導計画を立てる。
		体つくり運動の効果的な実践	B		
		自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てる。	B		
	運動を豊かに実践することができるようにする。	運動の合理的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	A	B	
		幅広い基礎運動技能の修得	B		
		ルールの理解	B		
	スポーツマンシップの育成	規律ある行動	A	A	
		あいさつの励行	A		
		マナー，ルールの尊守	A		
	保健学習の充実	心身の発達と心の健康についての理解	A	A	
		健康と環境，障害の防止についての理解	A		
		健康な生活と病気の予防についての理解	A		

評価基準　達成状況　Ａ：十分達成できている　Ｂ：達成できている　Ｃ：概ね達成できている　Ｄ：不十分である　Ｅ：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
２６ 技術・家庭科	生徒の学習意欲を高める学習指導	生徒の興味・関心に答える学習内容を工夫する。	A	A	・実践的・体験的な授業を多く取り入れることができた。 ・次年度は，生徒一人一人が生活との関わりを持つ視点を考え学習できるようにしたい。
		実験や実習を効果的に行い，興味を引き出すとともに，理解の定着を図る。	A		
		グループ活動を取り入れ，自主性や協調性を伸ばすとともに，楽しい授業の実施を工夫する。	B		
	科学的な理解と技術の習得	さまざまな事象を科学的にとらえる授業を展開する。	B	A	
		食生活や衣生活を主体的に行うための基本的な技術を身につける。	A		
		学習ノートを活用し，学習したことの定着を図る。	A		
	生活に生かす力の育成	冬休み等に，学んだことを実生活で実践するための課題を出す。	B	A	
		地域の活動などに積極的に参加し，実践する態度を育てる。	A		
		生活の場面で生徒が取り組めることを意識した授業を展開する。	A		
２７ 家庭科	生徒の学習意欲を高める学習指導	生徒の興味・関心に答える学習内容を工夫する。	A	A	・座学と実習のバランスを図りながら，基礎知識と基本の生活技術の習得と共に，人生を送るにあたっての生活者としての視点を育成する内容を取り入れたい。
		実験や実習を効果的に行い，興味を引き出すとともに，理解の定着を図る。	A		
		グループ活動を取り入れ，自主性や協調性を伸ばすとともに，楽しい授業の実施を工夫する。	A		
	科学的な理解と技術の習得	さまざまな事象を科学的にとらえる授業を展開する。	B	A	
		食生活や衣生活を主体的に行うための基本的な技術を身につける。	A		
		学習ノートを活用し，学習したことの定着を図る。	A		
	生活に生かす力の育成	冬休み等に，学んだことを実生活で実践するための課題を出す。	B	B	
		地域の活動などに積極的に参加し，実践する態度を育てる。	B		
		生活の場面で生徒が取り組めることを意識した授業を展開する。	A		
２８ 情報科	IT活用及びコミュニケーション能力の育成	実習の中で基本的なビジネス用ソフトウェアを利用する	A	A	・次年度は１単位の「社会と情報」となるのでこれまでの「情報Ｃ」を基にして内容の精選を図りたい。
		情報の検索，加工，発信という基本的なIT活用プロセスを扱う	A		
		グループワークや他とのコミュニケーションを重視した実習を行う	A		
	情報倫理の育成	知的財産権について，いろいろな場面で扱う	A	A	
		情報倫理について，自分で判断できるように指導する	A		
		人と人との関係性を重視した指導を行う	A		
	他教科や中等教育学校との連携	進路決定のプロセスにITを活用できるようにする	A	A	
		学校行事とリンクした実習を取り入れる	A		
		他教科や中等教育学校との連携をいろいろな場面で試みる	A		

評価基準　達成状況　Ａ：十分達成できている　Ｂ：達成できている　Ｃ：概ね達成できている　Ｄ：不十分である　Ｅ：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
２９ 道徳	望ましい生活態度を身につけ，互いの個性を尊重し，自主的・自律的な行動をしようとする態度を育てる。	自己や周囲における問題点を提示し，それに関連する教材を読み進める。	A	A	・生徒の実態把握からの題材選択 ・意見交流の充実の方法を考える。
		クラスやグループ内で意見を交換し他の考えを参考にしながら自分の考えを深めさせる。	B		
		自分の今までの考え方や生活に当てはめ，これからの自分の生き方に反映できるようまとめる。	A		
３０ 学級 活動	集団や社会の一員として望ましい人間関係を作りよりよい生活を築こうとする気持ちや自己を生かす力を養う。	シラバスの活用により，見通しを持って活動に取り組ませる。	B	B	・「見通しを持った活動」が課題である。学校，学年行事をふまえたシラバス活用の工夫が必要である。
		校外学習の計画と生徒主体の活動の実践	B		
		生徒会活動や学校行事への積極的な取り組み	A		
		学級での一人一役の実践と工夫	B		

評価基準　達成状況　Ａ：十分達成できている　Ｂ：達成できている　Ｃ：概ね達成できている　Ｄ：不十分である　Ｅ：できていない

３１ 総合的な学習の時間	自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。	「地域再発見」というテーマで，かえで祭において，自分の住んでいる地域についてポスターセッション方式で発表することを通して，探究のスキルを育てる。（１年）	Ａ	Ａ	・課題発見能力の基礎を養うことができた。レポートのまとめ方は今後の課題である。
		「ミニ研究」というテーマで，グループによる追究活動を行い，まとめ・発表をすることを通して，課題発見能力，情報収集・活用能力，課題解決能力を育てる。（１年）	Ａ		
		「探究のスキル　～科学的な見方や考え方を身につけよう～」というテーマで，個人課題研究（一人一研）のための，課題発見能力，情報収集・活用能力，情報の再構成能力，課題解決能力などのスキルを学ぶ。（２年）	Ｃ	Ｂ	・次年度の課題研究（一人一研）に向け，探究のスキルを身につける活動を行うことが必要である。また，キャリア学習も継続し，進路意識を高める。
		「フューチャー１０　～卒業後の10年を考える～」というテーマで，自己理解を深め，職業調べや職場見学を行うことを通して，職業の多様性を理解させ，職業観を育てる。また基礎期のまとめとして，卒業してから10年後の自分を見据えながら，これからの生き方の決意を固める。（２年）	Ａ		
		「未来への変革～視野を拡げよう，考える力を深めよう～」というテーマで，一人一研究に取り組み，学ぶスキルの習得とともに，課題追究能力，課題解決能力を伸ばす。また，大学見学，進路講演会を中心とした進路学習において，個々の進路に対する視野の拡張を図る。（３年）	Ａ	Ａ	・４年次においては，進路についての目標設定と，一人一研の内容とを関連させて遂行させていくことが大切である。
		「世界遺産を研究する」において，負の遺産としての戦争と平和，文化遺産のとしての歴史的建造物等について，多方向からの総合的な理解及び今後の課題の発見などの追究能力を育成する。（３年）	Ａ		
		「自己を見つめて・社会を見つめて～夢に向かい取り組んでいくことで自分自身に元気を!!そして日本に元気を!!～」というテーマで，一人一研究に取り組み，学ぶスキルの習得とともに，課題追究能力，課題解決能力を伸ばす。（４年）	Ａ	Ａ	・一人一研，進路行事を通じて，自己の興味や関心に対する意識向上と自己の適正を知ることができた。更に，上級年次での進路意識の向上を図りたい。
		マイフューチャーセミナーや大学出前授業，進路講演会を中心とした進路学習において，個々の進路に対する視野の拡張を図る。　（４年）	Ａ		
		「自己実現のために」というテーマで，一人一研究に取り組み，学ぶスキルの習得とともに，課題追究能力，課題解決能力を伸ばし，将来の自己実現の基礎とする。（５年）	Ａ	Ａ	・進路学習で決定した進路の方向性に沿って一人一研究のまとめを行い，希望進路の実現へとつなげていく。
		マイフューチャーセミナーや大学出前授業，進路講演会を中心とした進路学習において，個々の進路に対する視野の拡張を図る。　（５年）	Ａ		

評価基準　達成状況　Ａ：十分達成できている　Ｂ：達成できている　Ｃ：概ね達成できている　Ｄ：不十分である　Ｅ：できていない